白ネギ産地を支える未来のリーダー育成
～若手農業者の成長を促すグループ活動支援～

西部農業改良普及所

＜活動事例の要旨＞

弓浜地域において若手白ネギ生産者の自主的な活動グループが２つ立ち上がった。将来の産地リーダー育成のため、２つのグループのそれぞれの特色に合わせて、ほ場巡回や勉強会などの活動支援・提案を行った。

１　普及活動の課題・目標

（１）背景：弓浜地域の白ネギ生産と若手農家のグループ組織

鳥取県西部は各作型を組み合わせた白ネギの周年栽培が行われている。産地の中心である弓浜地域（米子市・境港市）は適度な地下水位と砂質土壌という特性から白ネギ栽培に向いている。また、単位面積あたりの所得率が高く、販売単価が安定し周年出荷できることから経営が比較的安定しており、白ネギの新規就農者は現在増加している。他品目同様に生産者の高齢化が進み生産者が減少していく中で、新規就農者の育成は産地の重要課題である。

図１　弓浜地域

これまで普及所からは日々の巡回等の中で技術指導や経営指導といった個別指導に加えて、関係機関と連携した組織活動による横のつながりのきっかけづくりを行ってきた。その中で更なる技術向上と、近隣農家との仲間づくりを目的に２つの自主活動組織（グループＡ、グループＢ）が立ち上がった。

（２）課題と目標

この２つのグループの会員を育成し、弓浜地域の将来の人材の核を育てるということが課題である。そこで、２つのグループの特色を活かした活動支援や提案を行うことで、①技術向上、②仲間づくりの促進につなげ、数十年後まで産地の将来を託せるような未来のリーダーの確保を目指す。

２　普及活動の内容

【グループＡ】

（１）ほ場巡回の開催

営農センター、試験場、グループＡの中のベテラン農家２名に働きかけ、境港地区のほ場巡回を開催した。ベテラン農家の技術力の高さと指導意欲の高さに着目し、アドバイザーの位置づけとして協力を依頼した。普及所からは開催までの調整と、当日の開催支援、技術資料の配布と説明を行った。さらに、お手本となるベテラン農家のほ場も巡回することで適切な栽培管理を学べるように工夫した。

（２）新規メンバー加入の呼びかけ

新規就農者、大型農家や法人の従業員、親元就農などの形態で境港市（さらには米子市にも）で白ネギを栽培する若手に普及所やメンバーから声をかけ、グループＡへの参加を呼び掛けた。懇親やほ場巡回への参加を呼びかけることで、仲間づくりや技術向上、意識の向上をねらった。

【グループＢ】

（１）ほ場巡回の開催

約１０か月間座学という形式で勉強会を開催してきたが、質疑応答が盛り上がらないということもあり、普及所は、新たな勉強形式としてほ場巡回の開催を提案した。当日の開催支援、技術資料の配布と説明を行った。

（２）グループワークの提案

これまでの勉強会は講師が一方的に説明する講義のようなスタイルであったので、生産者が自分達で考えて学べる研修会になるような提案をした。事前に栽培管理のスケジュールを記入するワークシート配布し、自分達であらかじめ記入したものを当日持参してもらった。また、より発言しやすい雰囲気が作れるようグループワークという形式にした。

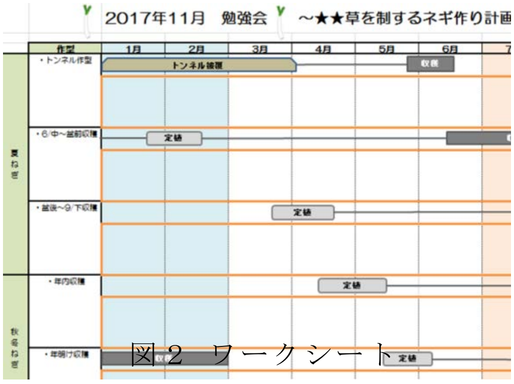

図２　ワークシート

３　普及活動の成果

【グループＡ】

（１）新規就農者の栽培技術が早期に安定した

　グループＡでできた横のつながりを活かした日頃の情報交換や、ほ場巡回の中でのアドバイスにより、除草技術の向上など、新規就農者の技術が早期に安定している。ベテラン農家からは肥料散布のタイミングや量、農薬の選択や散布タイミングや使用の仕方など具体的なアドバイスがあった。これらのアドバイスをきちんと実行し反収を向上させた。

例）境港市新規就農者Ｍ氏。夏ネギでの除草技術の向上

写真１　就農１年目(８月)

写真２　就農２年目(７月)

（２）仲間の輪が広がった

　グループＡへの参加呼びかけにより、メンバーが着々と増えている。

　新規メンバーはグループＡの意識の高さや高い技術に触れることで、自分の経営を向上させようという意識が高まった。優良農家をグループＡへ勧誘することによりグループＡメンバーの意識も向上している。また、大型農家の従業員も参加が増えており、従業員を通した大型農家の技術向上が期待できる。

【グループＢ】

（１）グループＢに合わせた勉強形式を提案し、積極性を引き出した

　ほ場巡回は、いつもの座学というかしこまった形式よりも開放的なほ場という勉強場であり、自発的に意見交換がはずんだ。また、実際に畑に出てみることにより「除草対策が本当に難しい」ということが共通して認識され、今後の学習課題の発見につながった。

（２）メンバー同士の距離が縮まり、関係性が深まった

　はじめは畑ですれ違った時にあいさつをするくらいの関係であったが、今は機械の貸し借りをしたり、栽培に関する情報交換を積極的に行うなど、お互いに助け合う姿勢が見られる。

４　今後の普及活動に向けて

以下の今後の展望は各グループのメンバーと共通認識が図られている。

【グループＡ】

・周りの農家を巻き込む

意識も高く、技術力も高いメンバーが揃い、自主的な活動というだけあって、グループＡとしての活動は今後も活発に行われていく見込み。この元気に楽しく農業をするという雰囲気を境港市内はもちろん、米子市や、弓浜地域以外にも広げていく。そのためには活動の紹介や、出席呼びかけを行う。

【グループＢ】

・栽培技術を向上させる

同じ地区でともに営農する仲間意識が芽生え、助け合う姿勢がみられはじめた。まだ自身をもって技術をアドバイスするメンバーが少ないため、今後のステップは自信の持てる技術を身に着け、互いにアドバイスし合う関係になる。参加型の研修会やほ場巡回を提案し、農家同士の意見交換を促しながら技術向上を目指す。

【２つの会共通】

・次の新規就農者を育てる組織になる

すでに新規就農者を指導したり面倒をみたりする先輩農家もいるため、「新規就農者を育てる組織」になりつつある。しかしまだまだ個人の成長段階であるため、いずれは就農希望の研修生を受け入れたり雇用したりして、次世代を育てていけるグループになる。そのためにはメンバーの技術力や農家としての心得がさらに向上していくように、それぞれのグループ活動に合わせた活動支援や提案を継続して行う。

（執筆者：民本　麻梨）